

王さん おめでとう



文化勲章の親授式が 11月3日、皇居・宮殿松の間で催され、スポーツ振興の王貞治さん（85歳）



や今年のノーベル化学賞の北川進さんら8人に、天皇陛下から勲章が手渡された。ミスター
プロ野球の長嶋さんが2021年に受賞しているので、王さんも今年あたりはと期待し
ていたので本当に嬉しい。「王さん、おめでとう」

王さんには、私にとって決して忘れられない記憶がある。私が高瀬高校3年の時のことであ
る。私はテレビで王さんを見る度に、王さんは「あの思いも寄らぬ無念の巡り合わせ」を乗り越えて
きたんだと、68年も前の出来事を今に思い出している。昭和32（1957）年8月、甲子園球場
での第39回全国高校野球選手権大会の2回戦、対寝屋川高戦で延長11回、早実は完封勝利した。
2年生の王貞治投手はなんとノーヒット・ノーランをやってのけた。「高校野球史上初めての栄光が箱
根を越えた」と大騒ぎされた年である。

同年11月26日から静岡で第12回国民体育大会が開かれ、早実は東京代表として推薦された。
静岡草薙球場での開会式で、投手で4番打者・早実の大黒柱の王一人が仲間と離れて、学生服を着て
観客席に居た。国体規則第6条4項（1）に、「出場資格者は日本国籍を有すること」と明記されて
いるからだった。

ここで、王さんの履歴を簡単に記しておく。昭和15（1940）年5月20日、東京都東京市本
所区業平橋（現墨田区業平橋）中華料理店（五十番）に、父親仕福さん（中国籍の中国人）、母親フミ
さん（富山県生まれの日本人）の次男として生まれる。小学校の時の野球チームでは4番でエース、
当時は左投げ右打ちだった。中学生の時にたまたま荒川博（当時毎日）に出会い、左打ちを勧められ
た。中学校卒業後、早実に進学。1年秋にはエースとなり、春夏2回ずつ甲子園に出場する。昭和3
4（1959）年巨人に入団、キャンプから打者に転向した。昭和37（1962）年より、毎日オ
リオンズを退団した荒川博が巨人の打撃コーチとなり「一本足打法」を訓練する。王さんの本塁打王
としての道筋が付けられた。生涯成績は2786安打、868本塁打、打率.301、昭和59（1

984) 年～昭和63(1988) 年まで巨人の監督を務めた。

王さんは国民栄誉賞の第一号である。37歳だった。昭和52(1977)年、当時の総理大臣福田赳夫が、本塁打世界記録を達成したプロ野球選手王貞治を讃えるために創設したのが始まりである。当時の世界記録は、714本のベース・ルースの記録を破り、最終的にベース・ルースに41本差をつけたハンク・アーロンの755本だった。

プロ野球選手では、昭和62(1987)年衣笠祥雄(40歳)、連続試合出場新記録達成(2131試合)、平成25(2013)年長嶋茂雄、松井秀喜の3人である。大相撲では平成元(1989)年千代の富士貢(34歳)、通算勝星最高記録更新、平成25(2013)年大鵬幸喜(没後受賞)、1960年代に「巨人、大鵬、卵焼き」の流行語になったほどの人気による。現在まで27人と一団体(2011年サッカーワールド・カップ日本女子代表)が受章している。

私は巨人ファンではない。嫌いではないが好きではない。しかし、王さんだけは別格である。あの人の柄に惚れて大のファンになった。王さんの人柄の良さが顕著に表れたエピソードを書いておかねばなるまい。王さんにとってプロ22年目、現役引退試合、昭和55(1980)年10月20日、巨人にとってはシーズン最終戦、巨人対広島26回戦が広島球場で行われた。広島球場は、対戦相手の球団に対する野次が凄いので有名だった。その広島球場で、満員の広島ファンのほとんど全員が、王さんの背中に声援を送ったのだ。「おーい王、最後の一本、右翼席へ頼むぞ！」



王さんは40歳、最終試合まで打順は4番であった。こんなプロ野球選手は王さん一人しか居ない。ミスタープロ野球の長嶋でさえ、38歳で打順は6番であった。第1打席二ゴロ、第2打席右飛、第3打席は右前打、第4打席一飛、そして9回二死後運命の打席は二飛に終わった。

私が小学校1年(当時は未だ国民学校)の時、中学校1年だった本家の武男兄貴が、「巨人は悪いんぞ。南海のエース別所毅彦を盗っていった。巨人ファンにはなるな。南海ファンになれ」と私に命令した。その日以来80年間、私は南海・ダイエー・ソフトバンク(親会社が変わり球団名も変わった)のファンを通して今日に至っている。

王さんが会長のソフトバンクのファンとして、今年の日本シリーズは最高に楽しかった。86歳に

もなってこんな楽しいことがあるとは、少し大袈裟だが本当に夢のようである。5試合のうち4試合が1点差、取り分け最終戦は延長11回で、決着がついたのだ。ソフトバンクが5年ぶり12回目（前身の南海、ダイエー時代を含む）の日本一を成し遂げた。ソフトバンクはセ・パ交流戦で息を吹き返して優勝（それまで最下位だった）、7位以下をセ球団が占めた。今季は両リーグの差が大きかったようだ。

第1戦から第5戦まで、5夜連続夕方6時から夜の10時過ぎまでテレビを独占、釘付けだった。耳は聞こえなくても内容はよく分かるから有難い。大のファンとして、試合結果を簡単にメモしておきたい。

10月25日（土）第1戦 ソフトバンク 1対2阪神 勝投手は村上、敗投手有原



ソフトバンク近藤1回代打で復活の先制打、2塁走者周東がホームイン。

10月26日（日）第2戦 ソフトバンク 10対1阪神 勝投手上沢 敗投手デュプランディエ

シーズン中極度の不振だった山川が復活の3ラン、5打点。ソフトバンク周東が1試合5安打の新記録。

10月28日（火）第3戦 阪神 1対2ソフトバンク 勝投手モイネロ 敗投手才木

ソフトバンク山川2戦連発。同点で迎えた6回柳町適時打で勝越し。

10月29日（水）第4戦 阪神 2対3ソフトバンク 勝投手大津 敗投手高橋

ソフトバンク山川3戦連発。

10月30日（木）第5戦 阪神 2対3ソフトバンク 勝投手杉山 敗投手村上

5回まで1安打のソフトバンク、2点を追う8回柳田2ランで同点とし、延長11回野村勇が勝越し本塁打を放つ。

現在のソフトバンクの前身・南海軍は、昭和13（1938）年に産声をあげている。

昭和19・20年の2年間は、太平洋戦争のため、プロ野球は活動を休止した。戦後昭和21（1946）年からプロ野球の試合が始まった。その1年のみ、球団名は英名のグレートリング、翌年南海ホークスとなり、平成元（1989）年福岡ダイエーホークス、平成17（2005）年福岡ソフト

バンクとなり現在に至る。

その79年間に監督は14人が交代している。最長は山本一人（昭和34年鶴岡に改姓）の23年（昭和21（1946）年～昭和43（1968）年）は別格としても、2番目の王さんは14年（平成7（1995）年～平成20（2008）年）も務めている。10年以上は2人しかいない。その後王さんは現在まで球団会長を務めている。

私の人生は、高校3年以来王さんの活躍に刺激されて頑張ってきたように思う。取り分け王さんがソフトバンクの監督になってからは王さんの生きる姿勢に励まされて生きてきたと言えよう。

平成13（2001）年夫人の恭子さんが胃癌で他界、王さん自身も平成18（2006）年胃癌に侵されたが克服して現在も活躍されているのである。

最後に野球と同じプロスポーツ、大相撲について書いて終わりにしたい。

九州場所で新たな看板力士が誕生した。ウクライナ出身の安青錦（21歳）である。最終盤で見せた逆転劇は圧巻だった。横綱豊昇龍に14日目、千秋楽と連勝して賜杯を手にした。戦火の故国を励ます快挙である。出身地のウクライナは格闘技が盛んなお国柄である。相撲は、昭和の大横綱大鵬の父親がウクライナ出身だったことが縁となり広がったという。11月26日（水）の大関昇進の伝達式で安青錦は「更に上を目指して精進いたします」と誓った。来年がいよいよ楽しみになってきた。（令和7年12月1日）

